

たしかめ

ー

名 前

1

ざったな じょうほうを かんりやくかする。

2

すじを 伸ばし、きん<sup>こつ</sup>骨 たくましい 若<sup>わか</sup>もの。

3

しゃ<sup>なが</sup>そうから 眺める まどの そとの けしき。

4

くばる かみの まいすうを かぞえる。

5

テレビで せんでんちゅうの しんがたじどうしゃ。

たしかめ Ⅰ

5	4	3	2	1
宣	枚	窓	筋	簡
テレビで宣伝中の新型自動車。	配る紙の枚数を数える。	車窓から眺める窓の外の景色。	背筋を伸ばし、筋骨たくましい若者。	雑多な情報を簡略化する。

6

よう<sup>ち</sup>稚えんは、おさないようじが かよいます。

6

7

どうぶつのかわで つくった ひかくせいひん。

7

8

おもてと うら、うらがわを 「りめん」という。

8

9

へいれつに でんちを ならべ まめでんきゅうを てんとうさせる。

9

10

してんを かえて かんがえなおす。

10

10	9	8	7	6
視	並	裏	革	幼
視 点 を 変 え て 考 え 直 す。	並 列 に 電 池 を 並 べ 豆 電 球 を 点 灯 さ せ る。	表 と 裏 、 裏 側 を 「 裏 面 」 と い う。	動 物 の 革 で 作 っ た 皮 革 製 品 。	幼 稚 園 <sup>ち</sup> は、 幼 い 幼 児 が 通 い ま す。

11

あしをいため、うごく<sup>げき</sup>と  
激つうがはしる。

12

めうえのひとをうやまい、けいごで  
はなす。

13

あいてはきようてき、ゆだんは  
するな。

14

でんしゃをおりたらあめが  
ふっていた。

15

はれすがた、よいしせいで  
しゃしんを撮<sup>と</sup>ろう。

15	14	13	12	11
姿	降	敵	敬	痛
晴れ姿、良い姿勢で写真を撮ろう。	電車を降りたら雨が降っていた。	相手は強敵、油断はするな。	目上の人を敬い、敬語で話す。	足を痛め、動くと激痛が走る。

16

16

むねのまわりのながさはかるきょういそくてい。

17

17

いきをすったり吐<sup>は</sup>いたりする「こきゅう」。

18

18

よんでもへんじがない。じんこうこきゅうをはじめる。

19

19

ほう却<sup>へき</sup>とは、わすれさることだ。

20

20

へいえんのじ刻<sup>こく</sup>がきたのでもんをとじる。

20	19	18	17	16
閉	忘	呼	吸	胸
閉園の時刻が来たので門を閉じる。	忘却 <sup>わすれ</sup> とは、忘れ去ることだ。	呼んでも返事が無い。人工呼吸を始める。	息を吸ったり吐 <sup>は</sup> いたりする「呼吸」。	胸の周りの長さを測る胸囲測定。



たしかめ

5

名 前

21

ほがら<sup>か</sup>で あかるい<sup>い</sup> せい<sup>い</sup>かく、めいろ<sup>う</sup>かい<sup>か</sup>つな<sup>ひ</sup>とだ。

22

が<sup>つ</sup>こう<sup>が</sup> つくら<sup>れ</sup>た ひ<sup>が</sup> そ<sup>う</sup>り<sup>つ</sup>き<sup>ね</sup>ん<sup>び</sup>。

23

なくな<sup>っ</sup>た ぶん<sup>を</sup> おぎ<sup>な</sup>う<sup>の</sup>が 「ほ<sup>き</sup>ゆう<sup>う</sup>」。

24

れいはい<sup>ど</sup>う<sup>で</sup>、ここ<sup>ろ</sup>し<sup>ず</sup>かに か<sup>み</sup>を お<sup>が</sup>む。

25

かきとめ<sup>そ</sup>く<sup>た</sup>つの ゆ<sup>う</sup>び<sup>ん</sup>が 届<sup>とど</sup>く。

25	24	23	22	21
郵	拝	補	創	朗
書留速達の郵便が届く。	礼拝堂で、心静かに神を拝む。	無くなった分を補うのが「補給」。	学校が創られた日が創立記念日。	朗らかで明るい性格、明朗快活な人だ。

26

しよくにつくことを「しゅうしよく」という。

27

27  
じんぎをおもんじたせんごくぶ将。

28

28  
こめだわらをいっぴよう担<sup>かつ</sup>げたらいちにんまえ。

29

29  
べにいろにもみじのはっぱがこうようする。

5

30  
もとのかたちをちぢめて描<sup>か</sup>いたすが「しゅくず」。

30	29	28	27	26
縮	紅	俵	仁	就
元の形を縮めて描いた図が「縮図」。	紅色にもみじの葉っぱが紅葉する。	米俵を一俵担げたら一人前。	仁義を重んじた戦国武将。	職に就くことを「就職」という。

たしかめ

7

名 前

31

31

せんぶんのいちのしゅくしゃくちず。

32

32

とうこうはんのはんちようにえらばれた。

33

33

私<sup>わたし</sup>のがつこうのつうがくいきはひろい。

34

34

なつやすみのさくひんをてんじする。

35

35

しがけんのきょうどりようりの鮒<sup>いなず</sup>寿司。

35	34	33	32	31
郷	展	域	班	尺
滋賀県の郷土料理の鮒 <sup>いなず</sup> 寿司。	夏休みの作品を展示する。	私の学校の通学区域は広い。	登校班の班長に選ばれた。	千分の一の縮尺地図。

たしかめ

8

名 前

36

36

えいぞうをスクリーンにうつすから「えいが」。

37

37

てんらんかいのえをみにいく。

38

38

つねとことなることだから「いじょう」。

39

39

柿<sup>かき</sup>のみがうれてまっかにじゅくした。

40

40

しごとのちんぎんがあがる。

40	39	38	37	36
賃	熟	異	覧	映
仕事 <small>の</small> 賃金 <small>が</small> 上 <small>が</small> る。	柿 <small>かき</small> の実 <small>が</small> 熟 <small>れて</small> 真 <small>っ</small> 赤 <small>に</small> 熟 <small>した</small> 。	常 <small>と</small> 異 <small>なる</small> こと <small>だ</small> から「異常」。	展覧会 <small>の</small> 絵 <small>を</small> 見 <small>に</small> 行く。	映像 <small>を</small> スクリーン <small>に</small> 映 <small>す</small> から「映画」。



41

にほんはこくさいれんごうのかめいこくだ。

42

ぼうふうけいぼうがはつれいされた。

43

えきまえてしよめいかつどうをしている。

44

かいこからきいとをとるようさんぎよう。

45

ぜんあくのはんだんはしっかりつけよう。

45	44	43	42	41
善	蚕	署	警	盟
善悪の判断はしっかりつけよう。	蚕から生糸を取る養蚕業。	駅前で署名活動をしている。	暴風警報が発令された。	日本は国際連合の加盟国だ。

たしかめ

10

名 前

46

うみにのぞむばしよにあるりんかいこうぎようちたい。

47

47  
うちゅうりようもゆめではない。

48

48  
かるやかにちゅうがえりするたい操そうせんしゆ。

49

49  
よくばって、なんでもほしがるいもうと。

50

50  
こめ・むぎ・だいずなどしゆしよくなるこくるい。

50	49	48	47	46
穀	欲	宙	宇	臨
米・麦・大豆など主食となる穀類。	欲張つて、何でも欲しがる妹。	軽やかに宙返りする体操選手。	宇宙旅行も夢ではない。	海に臨む場所にある臨海工業地帯。

たしかめ

11

名前

51

51

せかいのさんにとうろくされたふじさん。

52

52

ちちをしぼるためにそだてたにゅうぎゅう。

53

53

このかじゅえんのなしはとくべつうまい。

54

54

くらのなかに秘<sup>ひ</sup>ぞうしていた宝<sup>たから</sup>もの。

5

55

せかいのさんだいしゅうきょうのひとつがぶっきょう。

55	54	53	52	51
宗	蔵	樹	乳	遺
世界の三大宗教の一つが仏教。	蔵の中に秘蔵していた宝物。	この果樹園の梨は特別うまい。	乳を搾るために育てた乳牛 <sup>しば</sup> 。	世界遺産に登録された富士山。

56

ちきゅうのおん<sup>だん</sup>暖かはしんこくなもんだいだ。

57

いぬはみっかかえばおんをわすれず。

58

けいかくをおしすすめるすいしんやくになる。

59

にほんにもぞうがそんざいしていた。

60

まいにちたのしくらしている。

60	59	58	57	56
暮	存	推	恩	刻
毎日楽しく暮らしている。	日本にも象が存在していた。	計画を推し進める推進役になる。	犬は三日飼えば恩を忘れず。	地球の温暖化は深刻な問題だ。



61

しよくひんメーカーでいきょうのばんぐみ。

61

62

ちきゅうはたいようけいにぞくしている。

62

63

かきあやまりをゴジという。

63

64

きずぐちがあさく、けいしょうで済んだ。

64

65

げんじゅうにきびしくみはるけいびいん。

65

65	64	63	62	61
厳	傷	誤	系	供
厳重に厳しく見張る警備員。	傷口が浅く、軽傷で済んだ。	書き誤りを誤字という。	地球は太陽系に属している。	食品メーカー提供の番組。

66

66

ころんをやめ、れいせいにはなしあう。

67

67

やすい値<sup>ね</sup>だんでげんりょうをかう。

68

68

たべすぎていがいたい。いぐすりをのむ。

69

69

ちようでえいようをきゆう<sup>しゅう</sup>収する。

70

70

はいからさんそをとりいれている。

70	69	68	67	66
肺	腸	胃	段	論
肺から酸素を取り入れている。	腸で栄養を吸収する。	食べ過ぎて胃が痛い。胃薬を飲む。	安い値段で原料を買う。	口論をやめ、冷静に話し合う。

71

だいのうと しょうのうから できているのう

72

ぞうきいしょくの しゅじゅつが おこなわれた。

73

しっぱいし、おもわず したを だす。

74

わたしは いきものの せわが すきだ。

75

あぶないぞ。そこは きけんだ、ちかづくな。

75	74	73	72	71
危	私	舌	臓	脳
危ないぞ。そこは危険だ、近づくな。	私は生き物の世話が好きだ。	失敗し、思わず舌を出す。	臓器移植の手術が行われた。	大脳と小脳からできている脳。

たしかめ

16

名前

76

76 環かんきようもんだいの  
かいけつさくを  
かんがえる。

77

たまごの  
なかみは  
らんおうと  
らんぱく。

78

78 しごとのやくわりぶん担たんをきめる。

79

汚れた  
いるいをあらう  
きかいが  
せん濯き。

80

つくえのまわりをせいりする。

80	79	78	77	76
机	洗	割	卵	策
机の周りを整理する。	汚れた衣類を洗う機械が洗濯機。	仕事の役割分担を決める。	卵の中身は卵黄と卵白。	環境問題の解決策を考える。



81

81

きょうはわたしのたんじょうび。

82

82

さてつはすなのなかにまじっているてつ。

83

83

りょうりのしあげにさとうをくわえる。

84

84

だんとうであたたかくゆきもすくないことしのふゆ。

85

85

ゆめときぼくにみちたわかものたち。

85	84	83	82	81
若	暖	糖	砂	誕
夢と希望に満ちた若者達。	暖冬で暖かく雪も少ない今年の冬。	料理の仕上げに砂糖を加える。	砂鉄は砂の中に混じっている鉄。	今日は私の誕生日。

86

まきものは、いっかん、にかんとかぞえる。

87

つうやくをしてもらい、わけがわかった。

88

せなかからバーを跳び越すはいめん跳び。

89

ふたつのはへんのかたいつぽうだけひろった。

90

けがのおうきゅうしよちをする。

90	89	88	87	86
処	片	背	訳	巻
けがの応急処置をする。	二つの破片の片一方だけ拾った。	背中からバーを跳び越す背面跳び。	通訳をしてもらい、訳が分かった。	巻物は、一巻、二巻と数える。

91

91

ざっしのふろくがたのしみだ。

92

92

うたのかしをかみにかいておぼえる。

93

93

なにごともしいをもつとりくむ。

94

94

おやのいつけをちゅうじつにまもる。

95

95

しほうじこのげんいをきゅうめいする。

95	94	93	92	91
亡	忠	誠	詞	誌
死亡事故の原因を究明する。	親の言いつけを忠実に守る。	何事も誠意を持って取り組む。	歌の歌詞を紙に書いて覚える。	雑誌の付録が楽しみだ。

96

9 6

ぶ|ん|た|ん|し|て|ふ|た|ん|を|か|る|く|す|る|。

97

9 7

い|ち|お|く|え|ん|の|ね|が|つ|く|か|ち|の|あ|る|さ|く|ひ|ん|。

98

9 8

は|げ|し|い|な|が|れ|を|げ|き|り|ゆう|と|い|う|。

99

9 9

ぎ|も|ん|に|お|も|っ|た|ら|し|つ|も|ん|し|よう|。

100

100

し|よう|が|い|ぶ|つ|き|よう|そう|で|い|ち|い|に|な|っ|た|。

100	99	98	97	96
障	疑	激	値	担
障害物競走で一位になった。	疑問に思ったら質問しよう。	激しい流れを激流という。	一億円の値がつく価値のある作品。	分担して負担を軽くする。